

「平成22年度第1回富県宮城推進会議幹事会」 会議録要旨

日 時：平成22年6月2日（水） 午後1時30分～3時15分
場 所：宮城県行政庁舎4階 特別会議室
出席団体：資料名簿のとおり

1 開 会（司会：宮城県経済商工観光部富県宮城推進室 鈴木副参事）

2 あいさつ（東北大学飯島理事＜幹事長＞）

- 我が国の景気は、着実に持ち直してきているものの、なお自律性は弱く、失業率が高水準にあるなど不透明な状況が続いている。
- そうしたなか、宮城県では「富県宮城の実現」に向けた取組により、有力企業の県内への立地決定や地元企業の取引拡大など様々な取組の成果が現われてきている。
- こうした動きを加速していくため、県民及び産学官が一体となって取り組むことが不可欠であり、富県宮城推進会議が担う役割は大変重要である。
- 本日は、各構成団体の皆様から「富県宮城の実現」に向けた取組予定を報告していただくとともに、今月11日開催の富県宮城推進会議に向けて、団体間で協働して取り組む事業のテーマや「宣言文」などについて協議することとしている。
- 有意義な会議となるよう、活発な御議論をお願いする。

3 副幹事長選出

※ 副幹事長の若生幹事（宮城県経済商工観光部長）が4月の人事異動により代わったので、副幹事長2人のうち、1人が不在となっている。東北大学飯島理事（幹事長）の推薦のもと、満場一致で河端幹事（宮城県経済商工観光部長）が副幹事長に選任される。

宮城県経済商工観光部 河端部長＜副幹事長＞

- 先ほど、飯島幹事長からの挨拶にもあったが、「富県宮城の実現」に向けた取組は、着実に進んでいるところである。
- この動きをさらに加速していくため、皆様の御協力をいただきながら努力をして参る所存である。
- 副幹事長としては、東北大学の飯島幹事長を中心に、みやぎ工業会の白幡副幹事長とともに、一体となって取り組んで参るので、よろしく御願い申し上げます。

4 報告

- （1）平成20年度県内総生産（速報）の状況について
- （2）平成21年度「みやぎ発展税」の活用状況等について
- （3）「地産地消に取り組む県民運動」に関する取組の状況について

※ 事務局（富県宮城推進室 加藤室長）より、資料2から資料4まで一括説明

東北大学 飯島理事＜幹事長＞

- ただ今の事務局説明に対し、御質問はいかがか。

⇒質問なし

5 議題

(1) 「富県宮城の実現」に向けた各団体の主な取組実績及び取組予定について

※ 出席団体から資料6を中心に「富県宮城の実現」に向けた主な取組予定などについて説明、続いて東北農政局、東北経済産業局及び国土交通省（東北地方整備局、東北運輸局）から資料7-1から資料7-4までに基づき「富県宮城の実現」に向けた主な取組予定などについて説明

東北大学 飯島理事<幹事長>

○ 各団体から「富県宮城の実現」に向けた主な取組予定などについて説明があったが、これに関して御質問はいかがか。

⇒ 質問なし

(2) 「平成23年度に団体間で協働して取り組む事業のテーマ(案)」について

※ 事務局（富県宮城推進室 加藤室長）より、資料8に基づき説明

- 来年度の事業のテーマ(案)について各団体から募ったところ、5団体から6つのテーマが提案された。事務局で4つの分野、農商工連携、観光、大学と企業とのマッチング、林業に分類した。
- それぞれについて、提案内容を御説明申し上げる。

(①農商工連携)

○ 国内有数の水産県である強みを生かし、水産関連業も取り込んだ新たなマッチングモデルを創出し、地域経済の活性化を図ろうとする提案である。

(②～④観光)

○ 3団体から3つのテーマが提案され、これらを総合すると、今年10月の羽田空港の滑走路拡張整備の終了に伴い訪日外国人の増加が見込まれること、12月の東北新幹線の新青森延伸によるアクセス向上、平泉の世界遺産登録への動きなど、東北への外国人観光客の訪問環境が整いつつあることで、これらと合わせる形で宮城県の認知度向上や外国人観光客の受入体制の整備などを進める趣旨の提案である。

(⑤大学と企業とのマッチング)

○ 今年度実施しているモデル事業をさらに強化するために、連携協力大学に産学連携コーディネーターを配置し、大学と企業との円滑な連携を図ろうとする提案である。

(⑥林業)

- 宮城の将来ビジョンの第2期行動計画では、5,600haの民有林の間伐面積の目標を掲げているが、林業就業者の高齢化や後継者不足等の課題がある。また、建設業についても、受注の大幅減少などの課題がある。
- このような状況で、間伐を推進する上で必要な路網整備において、建設業の有する人材、資材などの活用が可能であることから、建設業と林業の連携を図ろうとする提案である。

- 以上が、各団体からの提案であるが、この中から2つに絞っていただき、11日の富県宮城推進会議で決定していただくことを予定している。

東北大学 飯島理事<幹事長>

- ただ今、事務局から絞り込みの提案があったが、この6つのテーマから、2つに絞り込むことについて御意見はいかがか。

(社) 東北経済連合会 宗村地域政策グループ副部長 (代理)

- ⑥「林建協働の取り組み」は、雇用創出のほか、環境保全、観光、農商工連携、人材育成にも効果が及ぶものであり、多くの団体にも関連してくる大変よい活動だと思う。

宮城県観光誘致協議会 革島事務局長

- 観光については、産業観光振興事業として一つにまとめられるのではないかと思う。

東北大学 飯島理事<幹事長>

- ①「農商工連携による新たなモデル事業の創出」の具体的な内容は？

宮城県商工会議所連合会 佐藤理事・事務局長

- 水産関連のフード見本市などの取組を石巻、塩釜、気仙沼を中心に実施しており、これらを実績にしながら、水産県の強みを生かした、何らかのモデル事業ができないかという、漠然としたイメージであるが提案したものである。

東北学院大学 柳井教授

- 農商工連携について、事例を紹介させていただく。青森県の八戸に高度な冷凍技術を持った企業があり、お米を使って冷凍し付加価値をつけている。農業・水産業・地元企業の技術を組み合わせることにより、地域経済が活性化するとともに、地域経済の循環を活発にすることで雇用が創出されている。

東北大学 飯島理事<幹事長>

- いくつかの御意見が出たが、事務局の考えについてはいかがか。

事務局

- ①の農商工連携については、新たなマッチングを創出することであり、また、国の認定を受けた事業が県内で6件あるが、この中に水産の取組が見られないということで、水産を加えた取組とすることにより、地域経済の活性化がさらに図れるのではないかと考えている。
- ②から④までの観光については、総合産業としての観光として、連携の図りやすいテーマであり、県としても観光振興を重要な柱として位置づけているので、幅広い取組が進められると考えている。
- ⑤の大学と企業とのマッチングについては、現在、みやぎ工業会がワーキンググループを設置して大学との意見交換などを実施している。雇用対策基金を活用し、産学連携コーディネーターを配置することとしており、来年度においても、東北学院大学、あるいは、みやぎ工業会で引き続き現在の体制での取組が可能ではないかと考えている。
- ⑥の林業については、昨年6月から、(社)宮城県建設業協会が中心となり、県、宮城県森林組

合連合会、(社)宮城県林業公社などにより、みやぎ林建共働推進協議会が立ち上げられ、平成21年度と22年度に調査・検討を実施しており、その調査・検討の結果により、23年度から取組を進める予定である。さらに、環境税を活用した取組の検討も可能と考えられる。

- 以上を総合して、⑤と⑥については、現在、県、あるいは、各団体で進めている取組体制で引き続き行うことが可能と考えるため、23年度については、①と②～④をテーマとしてはいかがか。

東北大学 飯島理事<幹事長>

- ただ今、事務局から説明があったが、①の農商工連携と②から④までの観光を23年度のテーマにしてはどうかとのことであるが、幹事の皆様いかがか。

⇒ 了承

(3) 平成22年度富県宮城推進会議における「宣言文」について

※ 事務局(富県宮城推進室 加藤室長)より、資料9に基づき説明

- 事務局で「農商工連携」、「雇用創出」、「人材育成」の3つのテーマを例示したところ、20の団体から23件の提案があった。その内訳は、「農商工連携」が11件、「雇用創出」が6件、「人材育成」が5件、新規提案が1件であった。
- 本日の審議では、テーマを1つに絞り、11日の富県宮城推進会議で「宣言文」をとりまとめていただくことを予定している。

東北大学 飯島理事<幹事長>

- ただ今、事務局から絞り込みの提案があったが、この4つのテーマから1つに絞り込むことについて御意見はいかがか。

⇒ 意見なし

東北大学 飯島理事<幹事長>

- それでは、この4つのテーマについて御意見はいかがか。

(社)宮城県経営者協会 伊藤事務局長

- 当協会からは「雇用創出」を提案したが、「雇用創出」は単体で成し得るものではなく、産業活性化の結果として出てくる。
- したがって、水産業も含めた農商工連携で経済の活性化を優先的に行い、雇用の創出という観点を「宣言文」に盛り込んでいただければ結構である。

東北大学 飯島理事<幹事長>

- ほかに御意見はないようであるが、事務局の考えについてはいかがか。

事務局

- 事務局としては、提案件数の一番多かった「農商工連携」を今年度の富県宮城推進会議における「宣言文」としていただければと考えている。団体間で協働して取り組む事業のテーマでも「農商工連携」が出ており、「宣言文」と具体の取組を合わせることができればより効果的である。

- 雇用の創出・人材育成についても、この「宣言文」に盛り込むことで、様々な効果が出てくるのではないかと。

東北大学 飯島理事<幹事長>

- ただ今、事務局から「宣言文」のテーマを「農商工連携」としてはどうかとの説明があったが、幹事の皆様いかがか。

⇒ 了承

6 その他

宮城県漁業協同組合 平塚指導担当理事

- 2月28日、チリ中部沿岸地震による津波被害を受けたが、災害復旧に対する御協力に対してこの場をお借りして御礼申し上げます。被害は気仙沼、牡鹿半島、松島湾に集中した。水産の被害額は、施設被害が約23億円、水族が約18億円、合計約41億円に達した。
- 多くの方々から励ましのメッセージや義援金の提供などの御支援をいただいたほか、被害施設の改修事業への支援、災害復旧資金活用に当たっての利子補給など迅速に御対応いただいた。国の激甚災害にも指定され、今後の復旧に向け漁業者への強い支援が可能となる。
- 漁協としては、一日も早い復旧を図り、「富県宮城の実現」に貢献できるよう、今後とも頑張りたいと思うので、よろしくお願ひ申し上げます。

平成22年度富県宮城推進会議、幹事会及び地域懇談会スケジュール（案）

※ 事務局（富県宮城推進室 加藤室長）より、資料10に基づき説明

⇒ 了承

7 閉会